

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| | | | | 石川県立七尾東雲高等学校 | | |
|--|---|--|---|--|--------------------|-------------------------------------|
| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等) | 判定基準 | 備考 |
| 1 基礎学力の向上と「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり | ① 生徒の自己存在感に配慮したわかりやすい授業づくりを目指す。板書や教材、話し方や説明などを工夫する。 | 生徒による授業評価において「授業がわかりやすい」、「教え方を工夫している」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | B評価 平均81.3% 授業がわかりやすい A 44.3%+B 38.1%=82.4% A 41.9%+B 38.2%=80.1% | 生徒による授業評価において、「授業がわかりやすい」と回答する肯定的評価は82.4%、「教え方を工夫している」については、80.1%であった。生徒にとってわかりやすい授業内容になるように努め、生徒が自己存在感を自覚できるよう、さらに指導内容の工夫に努めたい。 | CまたはDの場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価) |
| | ② 生徒の自己決定感や共感的人間関係に配慮した主体的・対話的な授業づくりを目指す。発表活動やグループ活動を効果的に取り入れる。 | 生徒による授業評価において、「グループ学習などで生徒が発言する場面が多い」、「私は授業に意欲的に取り組んでいる」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C評価 平均76.2% 生徒が発言する場面が多い A 32.4%+B 34.8%=67.2% A 44.2%+B 41.0%=85.2% | 生徒による授業評価において、「グループ学習などで生徒が発言する場面が多い」と回答する肯定的評価は、67.2%、「私は授業に意欲的に取り組んでいる」については、85.2%であった。生徒の授業への意欲は高まりつつあるが、アクティブラーニング型授業の工夫により、主体的・対話的学習が促進されるよう一層努力したい。 | CまたはDの場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価) |
| | ③ わかりやすい授業づくりの一環として、特にICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。 | 生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ※ただし、実習科目を除く | C評価 65.9% A=41.1% B=24.8% A+B =65.9% | 生徒による授業評価では、教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は65.9%であった。積極的にICT機器の活用に取り組む教員が増え、前回と比べると1%以上増加した。タブレットの利用も促進し、さらにICTの効果的な活用を推し進めたい。 | CまたはDの場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価) |
| | ④ 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために、5分間の朝学習に取り組む。 | 遅刻者数は1日平均 A 1.5人未満である。 B 2.0人未満である。 C 3.0人未満である。 D 4.0人以上である。 | A評価 1.34人 4月～1月 1日あたり平均1.34人 | 昨年度末の遅刻者数は1日平均1.92人であった。今年度1月末までの遅刻者数は1日平均1.34人となっている。遅刻生徒に対して全職員が共通理解を持ち、また、遅刻生徒の保護者との連携を密にし指導の効果を高めた。 | CまたはDの場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、1回ずつ実態調査する。 |
| | ⑤ 生徒の体力づくりに対する意欲が向上するよう体力テストのデータを活用し、目標を明確にするなどで授業を工夫する。 | 新体力テストの持久走で6点以上の生徒が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 40%未満 | D評価 平均43.9% 男子=50.8% 女子=32.4% | 新体力テストにおける持久走6点以上の割合は、43.9%で5月に比べ7.3%増加した。また、1～3点だった生徒の割合は17%と5月の35.6%に比べ18.6%減少した。年々生徒の体力の低下がみられ高得点者の割合を評価基準にすることが難しくなっている。3点以下の生徒の得点を向上させるために、体育の時間の準備運動後に10分間走を実施するなどして行きたい。 | CまたはDの場合、改善策を検討する。 | 年2回(5月、2月)の測定により評価する。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・資格指導は、生徒に興味関心をもたせて、自ら取り組ませる指導をお願いしたい。 ・県内就職者が多いので、即戦力として、活躍できる生徒の育成をお願いしたい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | ・専門科目の学びを、資格取得に結び付けて、進路指導に活かすように指導しているが、希望する進路先や資格が何に活かされるかを明確に指導することで、目的意識を高めたい。 ・企業で活躍する為に必要な基礎的な教養や、掃除をきちんとしたり挨拶などのコミュニケーションができる力を、共通教科の学習も含めた学校生活の中での指導により身に付けさせる。 | | | | |
| 2 生徒の適性に応じた志望進路の実現 | ① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。 | 学校の進路ガイダンスが、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | B評価 83% A=26% B=57% A+B =83% | 各学年(進路オリエンテーション、インターンシップ事前マナー指導、就職ガイダンス、進学相談会、上級学校訪問等)の進路行事のアンケートや感想文では、肯定的評価が高い。ホームルーム等の時間で活用で実践的でき細かな進路指導ができるように改善を図りたい。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価) |
| | ② 担任や進路担当が生徒との面談で、次回に保護者との相談結果を報告してくれるよう指導し、生徒の進路意識の高揚を図る。 | 家庭で、生徒の将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B評価 76% A=21% B=55% A+B =76% | 進路行事の機会を活用し、保護者への情報提供を行うことにより、家庭での進路に関する話し合いをする機会を設けることで、保護者の意見や感想を求めたい。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。(保護者の学校評価) |
| | ③ インターンシップや長期型企業実習前に、実施の目的を説明し、基本的な接客指導を徹底して行う。 | 受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接客に関する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C評価 平均79% インターンシップ A+B =87% デュアル A+B =52% | インターンシップには2年生の就職希望者を主対象に実施し87名が参加した。また長期型企業実習(デュアルシステム)には、農業系4名・商業系11名・工業系10名の参加となった。長期型企業実習は、より実践的な作業や接客が求められる場であり、評価結果も厳しかったと考えられるので、事前指導をより綿密に行う必要がある。 | C以下の場合、改善策を検討する。 | 7月から9月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・県内には、公務員を多く輩出する大学がある。本校からは3人の公務員合格者がいるが、指導方法を検討し、増加を図ると良い。 ・進路指導にあたる教員も、地域の企業に対する理解を深める努力をして、指導内容を充実させてもらいたい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | ・地域の企業の実態や保護者・生徒の進路希望先を考慮しながら、公務員としての求人が多方面にあることを紹介し、生徒の選択肢を広げる。 ・毎年、5月中をめどに、全職員で手分けをして企業訪問を行っているが、未開拓の企業もあり、生徒の希望する職種や就職先の拡大に努める。 | | | | |
| 3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成 | ① 部活動の指導方法等について顧問が研鑽を深め、生徒の意欲を引き出す効果的な指導の工夫・改善に取り組む。 | 1・2年生における部活動への参加状況は、週の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C評価 73% A=46% B=27% A+B =73% | 3年生が引退し、部員数が大きく減少した部活動では満足な練習ができなくなった。10月からは各種検定のための補習等も重なり、十分な活動が出来ない状況にあった。未経験者も参加しやすい環境作りをすることで、活性化を図りたい。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、部顧問が参加稼働率を報告する。 |
| | ② 生徒会執行部が部活動にも働きかけて、学校全体で朝の挨拶運動に取り組む。 | 生徒の学校評価において、「自分から進んで挨拶している」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C評価 72% A=22% B=50% A+B =77% | 朝のあいさつ運動は、1学期は部活動中心、2学期は生徒会執行部で行ってきたが、中間評価からの変化はほとんどなかった。玄関先のあいさつと共に、廊下でのすれ違いなど校内でのあいさつが行われるよう、意識的に指導したい。 | Dの場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価) |
| | ③ 清掃活動を通して、生徒が衛生面への意識が向上するように、教室美化に重点的に取り組む。 | 教室が毎日の清掃活動で美しく、衛生的であると判断する生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C評価 79% A=27% B=52% A+B =79% | 少しずつ美化意識の高まりが感じられる。7月・9月・1月に行った、美化コンクール期間中は、回数を増すごとに意識づけされ、教室などの清掃が丁寧になり取組の成果が得られた。今後の課題は、校舎全体に掃除が行き渡るように、曜日ごとに清掃場所を変えるなどの工夫を図りたい。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価) |
| | ④ 頭髪・服装の身だしなみの乱れや違反している生徒に対して、朝の登校指導および昼の校内巡視を継続して実施する。 | 登校指導や校内巡視に私は、生徒に声かけているとする肯定的評価が A 100%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 | C評価 86% A=32% B=54% A+B =86% | 毎朝登校時の挨拶運動で、生徒に声かけを行い、頭髪・服装等の身だしなみの乱れや違反している生徒には、その場で直させる指導を行った。学校生活全般において、全職員が指導を徹底していくよう努力した。1日の中で、それを見逃してしまう場面も見られたので、まずは授業の開始時に身だしなみを整えることから徹底していく。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、教員にアンケートを実施する。(教員のアンケート) |
| | ⑤ いじめのない学校づくりを目指す。学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないよう取組を行う。 | アンケートや面談での生徒理解、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | A評価 96% A=22% B=74% A+B =96% | 4月16日～20日に、面談週間を設け、ホーム担任がクラスの生徒全員と個人面談を行い、生徒理解に努めた。6月・10月には生徒指導アンケートを行い、いじめの把握と未然防止に努めた。常に、生徒の変化にアンテナを高くし、ホーム担任、部活動顧問等が必要に応じて面談を行った。また、毎日昼休みに、教員と生徒公安委員がチームを組み、校内巡視を行い、生徒の動向把握に努めた。 | C以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、教員にアンケートを実施する。(教員のアンケート) |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・七尾市も交流人口を増やさなければならぬ。ボランティア活動の際には、温泉があることなど、地域の魅力を発信しながら、外から人を呼び込むために行っていることを生徒に理解させ、「おもてなし」の大切さを学ばせて欲しい。 ・ボランティア活動の実践に対する自己有用感が低い。その為には、老人ホームの訪問などでの支援活動など、福祉の分野で小さなことから活動することで自己有用感が育まれていと思う。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | ・朝の挨拶運動が定着し、自発的に参加する部も増加している。一方で、自ら進んで挨拶できない生徒も散見されるので、朝の挨拶運動だけでなく、クラス・部活動・集会などの多くの場面で指導していきたい。 ・本校の工業科での「ものづくり」や総合経営学科での「農場や商品開発による生産物」を、プレゼンをする活動の中で、接客対応をする経験を通してマナー指導を充実させたい。 | | | | |
| 4 地域から信頼される開かれた学校づくりの推進 | ① 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。 | ボランティア活動や地域の活動に参加することで、ボランティア意識や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | D評価 66% A=20% B=46% A+B =66% | 生徒会役員やボランティア委員・部単位でボランティア活動を行っている。全校生徒で地域清掃を行っているが、県総体や新人大会期間中のため全員が参加できないことが、評価が低い要因になっていると考えられる。3月には地域のマラソン大会ボランティアに80名を超える生徒が参加し地域への貢献も大きいので、参加する生徒に活動の意義を十分に伝えてボランティアの意識を高めていきたい。 | Dの場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価) |
| | ② 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。 | 専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | B評価 84% A=36% B=48% A+B =84% | 今年度も総合的な学習の時間や課題研究を利用して、里山の環境保全活動としての棚田米作り、山の寺院群の観光ガイド、商業を学ぶ高校生との国際感覚育成事業の英語による観光ガイド、そして演劇科定期公演等数多く取り組んだ。生徒のアンケート結果としては、A+Bの合計が6ポイント低下したことは残念であるが、今年度も地域と連携した取組を多く実践し、地域に貢献する人材育成に邁進したい。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価) |
| | ③ 本校の教育活動状況をホームページの更新やメール配信等で積極的に情報提供する。 | 本校の教育活動状況についての情報提供が行われているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | B評価 85% A=24% B=61% A+B =85% | 学校行事を中心とする教育活動状況について、小まめにホームページにアップして、情報提供に努めてきた。次年度は、保護者への、ホームページの閲覧と携帯電話等による緊急連絡網の登録を呼びかけ、配付物があつたことを適宜メール発信するなど、情報提供に努めたい。 | B以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。(保護者の学校評価) |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・万葉マラソンの運営に協力いただいていることに感謝している。グローバルに展開する企業が地域限定で生徒を採用していることや、フラワーアレンジメントの技能を活かして、夢を広げることもできるので、進路指導に生かしてもらいたい。 ・道の駅での収穫祭での野菜販売は地域の方々に高く評価されている。また、道の駅内の店舗の売り上げ向上にもつながり喜ばれている。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | ・本校商業系列で取り組んでいる、山の寺院群の観光ガイドや商業を学ぶ高校生の国際感覚育成事業の英語による観光ガイド、農業系列での里山海環境ISOなどで、地域の活性化を図っており、地域資源の有効活用と地域連携を推進する。 ・3月に開催した、万葉マラソンには、90名の生徒がボランティアで参加した。その他、小さなことであっても、地域とのつながりを大切にボランティア活動やイベント参加を行っていることを、全生徒で共有して、生徒の自己肯定感や有用感を高めたい。 | | | | |
| 5 教職員の業務負担を点検して業務の適正化に取り組み時間外勤務時間の平均を前年度より減少させる。 | ① 各業務に使える時間と業務の目標を明確にし、働き方そのものを見直しを図る。 | 教職員ひとりひとりが、意図的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C評価 78% A=28% B=50% A+B =78% | 自ら勤務時間の減少に意図して取り組んでいるとする肯定的な回答が、78%であった。定時退庁日や学校閉庁日の設定や部活動の時間を調整することで、時間外勤務を意図的に削減することの理解が深まったので今後も継続的に取り組む。 | C以下の場合、改善策を検討する。 | 7月と12月に、教員にアンケートを実施する。(教員のアンケート) |
| | 学校関係者評価委員会の評価 | | ・数値のみにこだわらずに、実態の伴った働き方改革になるようにしてもらいたい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | ・働き方改革の意義を、教職員全員で理解を深め、業務の平準化が図られるようにしたい。 | | | | |